

ルートミュージアム事業の概要

1. 目的

ルートミュージアム事業の目的は、市内広域に存在する歴史文化資源を活用し、本市全体を日本の近代化・横須賀の近現代史体感の場として整備することであり、以下の5つのミッションを果たします。

- (1) 日本の近現代史・横須賀の歴史を後世に伝える
- (2) 横須賀の歴史と魅力を共有し郷土愛を育む
- (3) 横須賀の価値を内外に発信する
- (4) 市内広域に存在する横須賀の歴史文化資源を活用し、多くの人が横須賀を楽しめるようにする
- (5) 歴史的遺産・資料の散逸を防ぐ

2 基本方針

横須賀だからこそ伝えられる、横須賀の歴史や近代日本に果たした役割、過去への思いを馳せるなど、横須賀の魅力を発見するとともにその歴史を身近なものにしてもらう場とします。

3 基本構成

ルートミュージアムの整備にあたっては、市内全域をフィールドに、本市の多様な姿を舞台とした「旧軍港市・横須賀と日本の近代化の歴史物語」を、ヴェルニー公園内に建設するティボディエ邸を活用した中核拠点からサテライトへ誘うことにより発見・体感するミュージアム機能を整備します。

(1) 中核拠点

中核拠点の施設整備は、横須賀製鉄所（造船所）の姿を現代に伝える数少ない遺産であり、日本の近代建築技術の原点となったティボディエ邸を、想定復原図面などを基に現代の部材や工法で再現していきます。

加えて、実際に使用されていた貴重な木トラスや木骨れんが壁の部材の一部を原寸大で展示し、日本の近代化の技術としての横須賀の役割も訴求します。

VR（Virtual Reality の略）などの最新映像技術を活用して横須賀の歴史を学ぶ体験学習施設としてだけでなく、ガイドンスなど観光交流施設としての面も備えた市内周遊のスタート地点となる拠点にしていきます。

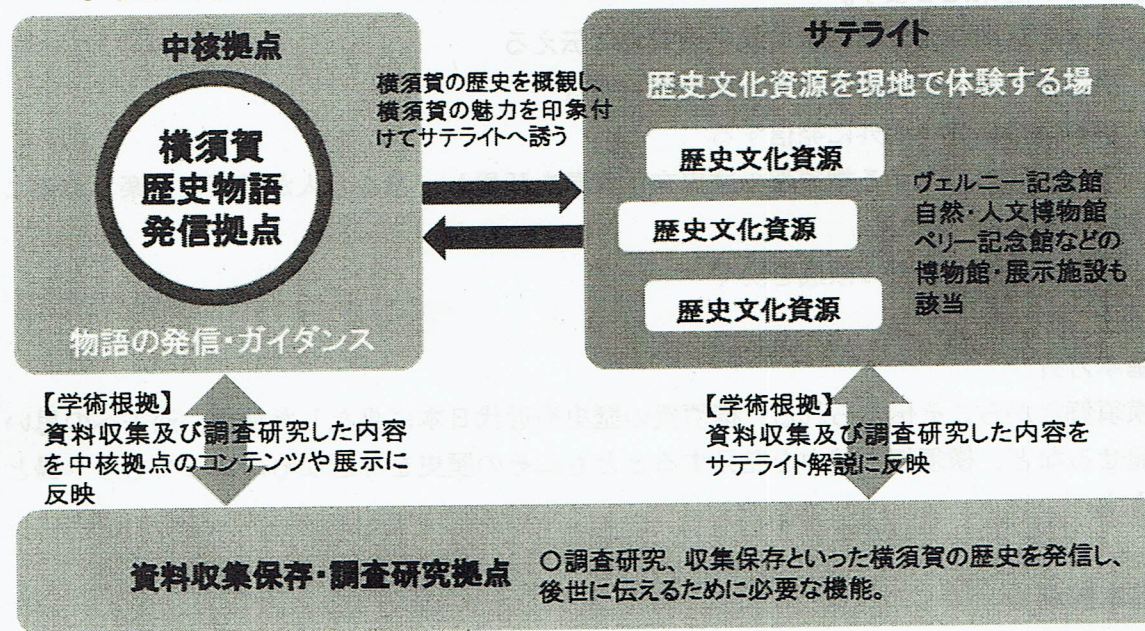
(2) サテライトについて

ルートミュージアムの基本的な考え方に基づいて、既に整備がされている三笠公園やヴェルニー公園のほか、横須賀再興プランに掲載されている猿島砲台跡、走水低砲台跡、千代ヶ崎砲台跡、ペリー公園・ペリー記念館について、優先的に整備し、今後、第二海堡、田戸台分庁舎、貝山地下壕、観音崎や浦賀地域などに点在するサテライト候補について、整備の進捗状況に合わせて順次サテライト化するべく検討を進めます。

基本構成イメージ

【基本構成】

中核拠点とサテライトと資料収集保存・調査研究拠点の連携



中核拠点の施設イメージ

